



Title	目で見るWHO 第88号 表紙・目次等
Author(s)	澤, 芳樹
Citation	目で見るWHO. 2024, 88, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/97177
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

目で見る WHO

2024 春号 

No.88

Visual Journal of Friends of WHO Japan



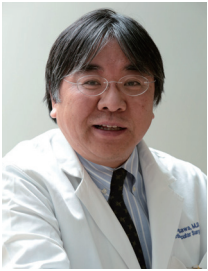
公益社団法人

日本WHO協会

CONTENTS

P1	ごあいさつ	澤 芳樹
P2	巻頭特集	
	紛争と暴力と健康	中村 安秀
P6	特別寄稿	
	東京栄養サミットからフランス栄養サミットへ：日本からの緊急提言	山本 尚子
P8	セミナー・イベント報告	
	1. 公衆衛生に国境はない Beyond SDGsとしてのプラネタリーヘルス	島津 美寿季
	2. World AIDS Day in Botswana 感染率上位国のエイズデーとは？	柴原 史歩
	3. セルフケア導入は加速する～WHOセルフケアガイドラインシンポジウムに参加して～	磯村 達也
P16	NGO・団体紹介	
	特定非営利活動法人 災害人道医療支援会 HuMA	高田 洋介
P18	国際保健を学べる大学・大学院	
	新潟大学大学院 医歯学総合研究科	菖蒲川 由郷
P20	留學生日記	
	社会の中に「公衆衛生」を位置付ける：健康と幸福をもたらすサイエンスとアート	佐々木 暁洋
P22	WHO職員日記	
	感染症サーベイランスの強化を目指して	森下 福史
P24	WHOニュース 11月／12月／1月	林 正幸 渡部 雄一
P30	関西グローバルヘルス(KGH)の集い	
	オンラインセミナー第8弾 第1回：健康の社会的決定要因	島津 美寿季
P32	日本WHO協会沿革／WHO憲章	
P34	書籍紹介コーナー	柴原 史歩 佐伯 壮一郎
P35	「世界保健デー 2024」イベントのお知らせ	
P36	WHOの地域事務局と加盟国	
P37	寄付者のご芳名／編集委員のページ	柳澤 沙也子
P38	入会案内	

ごあいさつ



日本WHO協会 理事
大阪大学 特任教授
大阪けいさつ病院 院長
澤 芳樹

「医療の近未来予想図」

世界最速最先端で高齢化社会を進む我が国において、従来の創薬や医療機器開発の時代から、新たなサイエンスの発見に基づく新しい治療開発への挑戦が始まり、これまで治らなかった人が治る医療イノベーションの時代に突入しつつあります。

最近の医学医療においては、特にここ10年の進歩は、過激といっても過言ではないほどのスピードで進歩しています。いち早く新しい医学や医療技術を取り込み実用化することで、この10年間に於いて医療は大きく進みました。特に新型コロナに対してmRNAワクチンによる新型コロナパンデミックの克服は、まさに医学のレジリエンスといえます。

近年、世界情勢は日々緊迫感をまし、明日をも知れない危機的状況になっています。一方、生活の合理性を高め究めるはずのテクノロジーの進歩、ITやAI等の技術革新は国を超えて急速に拡散するSNSやFake情報戦争は人間のエゴや人種のポピュリズムを一層過激で複雑にしています。

その観点からすると今後の医療の未来予想図として最良と最悪の二つのパターンが予想されます。おそらく、AI診断ゲノム医療等による医療の革新化は、予測医学や予防医学を進歩させます。一方、ロボティクス等革新医療機器で治療手技が超低侵襲化し、医師の活動や領域も大きく変化

します。一方、iPS細胞による再生医療が完成すると、臓器機能が修復され臓器不全が克服され、がんや循環器疾患など多くの病気や感染症が制御され克服されます。ともすると、アンチエイジングも科学の進化で現実のものとなり、老化の制御や認知症も回復できるようになる可能性があり、多くのヒトがDNAレベルの天寿を元気に全うし、欧米や日本は人生100才以上のWell-being時代になりうるのではないのでしょうか。

一方、最悪の場合は人の私利私欲とエゴが災いし、民主主義国家の衰退と権威主義国家の台頭はすでに始まっており、巨大国家のエゴやポピュリズムは、国家間の争いを激化し、SNS等の情報過多は人の心を扇動し国家の壁や境界が崩れつつあります。地球温暖化や地球規模の汚染は制御できず、地球環境が崩壊しつつあります。再び新型コロナウイルスのような未知の感染症が制御不能な状況で、人類を滅亡の危機にさらさないとも限りません。一方、AIが人間の能力を上回り制御不能になる可能性も懸念され、人類も自然淘汰されていくかもしれません。

近未来が、このような最悪の事態を避け最良の事態に近づけるために何が重要なのか、今回の新型コロナのパンデミックに、改めて、地球規模で考えるべき神の啓示であったのかもしれません。そのうえで、WHOの果たす役割と期待は大きいと考えられます。私も理事の一人として、WHO協会を通じて微力ながら少しでも貢献できればと思っております。

令和6年4月